

● 学会関係

日本地理学会春季大会は、4月4日～7日、東京都立大学目黒校舎において開催された。4・5日は自然33、人文50の研究発表が行われ、岡崎セツ子・高田和枝両氏が「先志摩の地形について」を発表した。エクスカーションは、利根川中流部の自然と人文、秩父の風土と生産、日立・鹿島両地区の工業と地域開発、信濃川中流部の地形の4班に分れて行われた。

6月10日東大地理学教室で行われた6月例会において、浅海重夫助教授が「日本の土壌分布、とくに地形面との対応について」と題し発表を行った。

秋季大会は、10月31日～11月3日愛知県岡崎の愛知教育大学で開催される。今回はシンポジウム形式で、一般発表は行われない。シンポジウムのテーマは、(1)構造地形学の課題(10月31日)、(2)水資源の開発と利用(11月1日)、(3)大都市圏の比較研究(10月31日、11月1日)である。巡検は、(1)根尾谷断層(日帰り)、(2)濃尾平野の土地利用(1泊2日)、(3)大都市名古屋の発展と休養地の開発(1泊2日)、(4)東三河・浜名湖周辺地域の地方都市と地域開発(1泊2日)の予定である。

第21回九学会連合大会は、5月13・14日に東大理学部2号館講堂で開かれ、共同調査「利根川」について14の研究発表と共同討議が行われた。地理学会関係では、利根川中流域の地形と洪水、利根川下流地帯の開発の発表があった。共同調査「利根川」は41年度は日本地理学会が当番学会をつとめ、引続き42年度も調査が行われる。

九学会連合は、故渋谷敬三氏の提唱により発足、地理・考古・人類・心理・民俗・音楽・言語・宗教・社会の各学会から成り、雑誌「人類科学」を発行している。昭和25年より大体島、半島を対象として総合的な共同調査を行ってきた。今迄に調査した地域は、対島(昭和25・26年)、能登(27・28年)、奄美大島(30～32年)、佐渡(34～36年、34年度調査隊長渡辺光教授、地形担当式正英助教授他)、下北(38・39年)でそれぞれ報告書が出されている。

● 同窓会関係

第6回地理学科同窓会は、昨年11月20日の微音祭当日、地理学第二研究室で行われた。出席者は1回生から14回生まで計25名、大学側からは渡辺・松井・浅海・正井の各先生と貝山さんが御出席下さり、近況報告その他で楽しいひとときを過ごした。本年は松井先生の還暦を記念して盛大に行う予定。

各回のクラス会の模様は以下のとおり。